

—大分市—

国際自転車競技大会となった「OITAサイクルフェス」の取組み

1. はじめに

大分市では、平成18年3月に自転車に関するさまざまな取組みを進める指針となる「大分市自転車利用基本計画」を策定しており、その中には、自転車を活かした観光・地域振興の推進を挙げている。

これは、自転車によるにぎわい創造や全国に発信できるイベントの開催を計画したものであり、その取組みの一環として、本市で平成26年から開催している「OITAサイクルフェス」を紹介する。



大分駅前のスタート・ゴール地点

2. OITAサイクルフェスについて

OITAサイクルフェスは、自転車に親しんでもらうための祭典であり、JBCF（日本実業団自転車競技連盟）主催のサイクルロードレースに加え、一般の方が参加できる「別大サイクルラリー」や自転車安全教室「ウィラースクール」、「市民自転車パレード」などの自転車総合イベントとして始まった。

大分いこいの道周辺道路や大分スポーツ公園周辺道路等を活用したレースで、5回目となる昨年、ついに国内7番目となるUCI（国際自転車競技連合）公認のレースとなり、国内のチームはもちろん、国外3カ国から6チームが参加し、国際ポイントの獲得できる国際自転車競技大会となった。

3. おおいた いこいの道クリテリウム

クリテリウムとは、市街地に作られた1周の距離が比較的短い周回コースのレースであり、本大会では1周約1kmのコースで競われる。

このクリテリウムは、平成25年に大分駅周辺総合整備事業のひとつとして完成した幅100メートルのシンボルロード「大分いこいの道」で開催しており、大分駅南口（上野の森口）を出ると、すぐ目の前がレース会場という最高のロケーションである。

色とりどりのウェアとロードバイクが目目の前を何度も通過し、選手から送られてくる風と高圧のタイヤが路面を転がる音の迫力に誰もが胸を熱くする。

昨年の大会では、地元出身の黒枝咲哉選手が優勝するなど、今後の地元のサイクルロードレースファン獲得に向けて大きく貢献した。

4. おおいた アーバンクラシック

1周約10kmの周回コースで競われるレースであり、一般のサイクルロードレースが郊外の山間部などで行われることが多いなか、大型商業施設や住宅団地の中を走るといふ他に類を見ないレースである。

沿線住民の理解と協力を得るために、担当者は早い時期から地元に入り、丁寧な説明と対応を行うことを心がける。結果、ほぼ半日の交通規制となるにもかかわらず大きな苦情もなく、地元のにぎわいをもたらすイベントとなっている。市民に支えられた国際レースであると言える。



昭和電工ドーム大分前のスタート・ゴール地点

5. おわりに

第6回目となる今年は、8月10日、11日の開催である。2日間にわたって自転車の魅力を存分に楽しみながら、関あじ関さば、とり天など、大分市の誇る「食」も多くの方に満喫していただきたい。

（大分市 都市計画部 都市交通対策課 佐藤 洋輔）